

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)東山株式会社東海デポ新倉庫	階数	地上1階
建設地	愛知県東海市南桑田町口/東95-10.95-11.95-12, 1/東363-4.363-1.363-3	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	20人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,380時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2020年8月 予定	評価の実施日	2020年2月3日
敷地面積	6,627 m ²	作成者	兼松 朋恵
建築面積	2,601 m ²	確認日	2020年2月5日
延床面積	2,565 m ²	確認者	岩治 洋



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 0.7 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>①参照値 100%</p> <p>②建築物の取組み #DIV/0!</p> <p>③上記+②以外の 0!</p> <p>④上記+ 46</p> <p>(kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q のスコア = 2.4</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア= 0.0</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア= 3.2</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア= 1.9</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR のスコア = 2.9</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア= 3.0</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア= 2.9</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア= 2.8</p>

3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>N.A</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>6.9%</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0%</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.0</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} - \text{建築面積} - \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部						建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄				評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体
		Q 建築物の環境品質													
Q1 室内環境															
1 音環境															
1.1 室内騒音レベル															3.0
1.2 遮音															
1 開口部遮音性能															
2 界壁遮音性能															
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)															
4 界床遮音性能(重量衝撃源)															
1.3 吸音															
2 温熱環境															
2.1 室温制御															
1 室温															3.0
2 外皮性能															3.0
3 ゾーン別制御性															3.0
2.2 湿度制御															3.0
2.3 空調方式															3.0
3 光・視環境															
3.1 昼光利用															
1 昼光率															3.0
2 方位別開口															
3 昼光利用設備															3.0
3.2 グレア対策															
1 昼光制御															5.0
3.3 照度															3.0
3.4 照明制御															3.0
4 空気質環境															
4.1 発生源対策															
1 化学汚染物質															3.0
4.2 換気															
1 換気量															3.0
2 自然換気性能															3.0
3 取り入れ外気への配慮															3.0
4.3 運用管理															
1 CO ₂ の監視															3.0
2 喫煙の制御															3.0
Q2 サービス性能															0.43
1 機能性															
1.1 機能性・使いやすさ															
1 広さ・収納性															3.0
2 高度情報通信設備対応															3.0
3 バリアフリー計画															3.0
1.2 心理性・快適性															
1 広さ感・景観 (天井高)															3.0
2 リフレッシュスペース															3.0
3 内装計画															3.0
1.3 維持管理															
1 維持管理に配慮した設計															3.0
2 維持管理用機能の確保															
2 耐用性・信頼性															0.5
2.1 耐震・免震・制震・制振															2.8
1 耐震性(建物のこわれにくさ)															0.4
2 免震・制震・制振性能															3.0
2.2 部品・部材の耐用年数															0.52
1 躯体材料の耐用年数															0.48
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔															0.80
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔															0.20
4 空調換気ダクトの更新必要間隔															0.33
5 空調・給排水配管の更新必要間隔															0.36
6 主要設備機器の更新必要間隔															0.36
2.4 信頼性															0.15
1 空調・換気設備															0.12
2 給排水・衛生設備															0.19
3 電気設備															0.25
4 機械・配管支持方法															0.25
5 通信・情報設備															0.25
② ② 耐震クラスAにしているため															

3 対応性・更新性			0.4	3.6	0.48						
3.1 空間のゆとり			0.3	5.0	0.31						3.6
1 階高のゆとり			-	5.0	0.60						
2 空間の形状・自由さ			3.0	5.0	0.40			3.0			
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31			3.0			
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38						
1 空調配管の更新性		②	-	-	-						
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.20						
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.13						
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.13						
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.27						
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.27						
Q3 室外環境(敷地内)					0.57						1.9
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30						1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40						3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	1.5	0.30						1.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50						
3.2 敷地内温熱環境の向上				1.0	0.50						
LR 建築物の環境負荷低減性											2.9
LR1 エネルギー					0.40						3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	-	-						-
2 自然エネルギー利用			3.0	-	-						-
3 設備システムの高効率化			3.0	-	-						-
4 効率的運用			1.0	3.0	1.00						3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00						
4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50						
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50						
集合住宅の評価			-	-	-						
4.1 モニタリング			-	3.0	-						
4.2 運用管理体制			-	3.0	-						
LR2 資源・マテリアル					0.30						2.9
1 水資源保護			0.1	3.0	0.15						3.0
1.1 節水			3.0	-	-						-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			1.0	3.0	1.00						
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67						
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33						
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.8	0.63						2.8
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07						
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24						
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②		5.0	0.20						
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自		3.0	0.20						
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.05						
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自		3.0	0.24						
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22						3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32						
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68						
1 消火剤				-	-						
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	1.00						
3 冷媒			3.0	-	-						
LR3 敷地外環境					0.30						2.8
1 地球温暖化への配慮		①		-	-						-
2 地域環境への配慮			0.5	2.5	0.50						2.5
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25						
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50						
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.0	0.25						
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25						
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25						
3 交通負荷抑制		独自		5.0	0.25						
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25						
3 周辺環境への配慮			0.6	3.2	0.50						3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40						
1 騒音		独自		3.0	1.00						
2 振動		独自		-	-						
3 悪臭				-	-						
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40						
1 風害の抑制				3.0	0.70						
2 砂塵の抑制				3.0	-						
3 日照障害の抑制				3.0	0.30						
3.3 光害の抑制			0.2	4.4	0.20						
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				5.0	0.70						
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30						

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)東山株式会社東海デポ新倉庫

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				N. A
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
② 資源の有効活用				3.0
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:6.9%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$ の総和

重点項目スコア= $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)東山株式会社東海デポ新倉庫

計画上の配慮事項	
総合	物流倉庫の計画である。効率的な作業を可能とするプランニング、経済性の高い建材を使用することで、機能的な倉庫計画を目指した。
Q1 室内環境	
Q2 サービス性能	階高、倉庫形状はゆとりを持った計画とし、利用しやすい倉庫計画とした。
Q3 室外環境(敷地内)	周囲の街並みとの調和に配慮し、外観は無彩色で構成した。また前面道路に対して一部緑化を行い、良好な周辺環境となるよう配慮した。
LR1 エネルギー	省エネルギーに配慮した。
LR2 資源・マテリアル	雨水利用、雑排水利用を取り組んでいない。
LR3 敷地外環境	適切な量の駐車場を確保するとともに、十分な荷捌きスペースを確保した。
その他	